

仕事をする2つの意味とは  
—学校の学習はすべて社会に出て役立つ—

開倫塾  
塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。  
1年を3学期に分ける学校も多いですが、最近では中学校の中には2学期制を取り入れ、1年を2つの学期に分けているところもあります。それらの学校ではちょうど9月の第一週目ぐらいに各中学校で定期テストが行われますので、夏休みの最後の週から定期テストの準備をしています。夏休みにこんなに学習する中学生がいるのかと思うくらい2学期制の中学生はよく学習しています。本当に頑張っていたいただきたいと思います。
2. この「開倫塾の時間」は社会人も含め効果の上がる学習方法についてお話する番組です。なぜ学習するのかという意味の一つに、将来、仕事をするためということがあります。小学生・中学生・高校生・大学生の皆さんは「働くことの意味」を自分なりに考えた上で、今、学習する意味をもう一度考えていただければと思います。このような理由で、今日は「働くことの意味は何か」というお話をさせていただきます。
3. 「人はなぜ働くのか」ということについてはいろいろな意見がありますが、私は2つの意味があると思います。仕事というのは、お客様の問題を解決することです。どのような仕事であっても、仕事をするときにはお客様が必ずいらっしゃいます。そのお客様が持っているたくさんの問題を一つでも解決することが、仕事の意味だと私は思います。お客様の問題を解決することで人様のお役に立つ、そして、最終的には社会のお役に立つ、これが仕事をする意味の1つだと私は思います。
4. また、人は生活をする上で収入が必要です。ですから、生活できるだけの収入を得ること、これが仕事をするもう1つの意味だと私は思います。ただ、生活をするためには一家(一つの家庭)で合わせて収入を得ればよいわけですので、1人の方が一家を支えなくてもよいと考えます。皆さんで協力し合って上手く家庭を支えるだけの収入が得られればよいと思います。1人で稼ぎ出す家庭もあるかもしれませんが、みんなで協力し合って収入を得ることも大事だと思います。
5. 仕事をしていますと楽しさがあります。ではどのような楽しさかといいますと、先ほどお話しましたように、お客様の問題を解決してお客様のお役に立ち、お客様に満足してもらえということですので。つまり、仕事の楽しさの1つは、顧客満足、お客様に満足してもらうことです。もう1つは、人様の役に立つことでさらに社会の役に立つということ。そして、その結果、収入を得られて生活ができることです。これらが、仕事をする意味でもあり、仕事をする楽しさだと私は考えます。
6. その一方で、仕事をするときには苦しさもいくつかあります。1つは、お客様の期待が非常に大きいので、その期待にどう応えることができるのかということです。これは大変なところで、仕事をする上での苦しみであり、楽しみでもあります。

7. 2 つ目は、競争相手が山ほどいるということです。近所だけでなく日本国内、海外にもいます。今はないが、これからあらわれるかもしれない競争相手もいます。競争しても負けない力を競争力といいますが、どのように競争力をつけるか・国際競争力をつけるか、そして、競争相手とどのように競争するかということが大事かと思えます。
8. それから、少し難しい話になりますが、仕事をするときには仕組みをつくる必要があります。仕組みをつくった上でみんなで上手くやって結果を出すという乗り越えなければならない別の問題があります。
9. そして最後は、毎日ありとあらゆるところで発生する問題をどう解決し続けるかということです。円高や景気が悪いこと、デフレや、超少子高齢化も大問題です。これも仕事をする上での困難、苦しさです。
10. 繰り返しになりますが、お客様の期待が大きいこと、競争相手が山ほどいること、仕組みをつくってみんなで上手くやって結果を出すこと、毎日発生し続ける問題をどのように対処するかということ、これらのことが仕事をするときの苦しさになるかと思えます。
11. ただ、1 つ 1 つの仕事には社会的な意味・使命(ミッション)がありますので、仕事を通して生きがいを見出すこともできます。このように、仕事には意味もあり、楽しさもあり、苦しさもあります。また、仕事を通して生きがいを見出すこともできます。ですから、仕事をするための準備をするのが小学校時代・中学校時代・高校時代、そして多くの人が行かれる大学・短期大学・専門学校・大学院などの学校の意味だと思えます。
12. ここで 1 つ確認していただきたいのですが、学校の学習は世の中で役に立つのか・働くときに役に立つのかという問題がありますが、私は、小学校・中学校・高校・大学・短期大学・専門学校・大学院などありとあらゆる学校の学習は世の中に出て全部役に立つと確信しています。各科目、例えば中学生ならば英語・数学・理科・社会・国語、それから実技科目、保健体育・音楽・美術・技術家庭がありますが、これらの科目は社会に出てからも全部役に立ちます。
13. ですから、私のお願いの 1 つは、学校で学習した教科書や授業中のノートは一生の宝物ですので、処分しないで箱の中や本棚の一角に置いていただけてずっと持ち続けていただきたいということです。死ぬまで持っていただけて、時々でよいですから、中学生のときにこんな学習をしたなとか、高校生の時にこんな学習したな、こんな授業を受けたなと学校の教科書やノートなどを取り出して眺めていただきますと、昔学習したときのことや定期テストのときの学習をすぐに思い出し、頭が中学校時代、高校時代にすっかり戻ります。そして、知識が再度身に付きますので、非常によい学習になります。ですから、決して学校の教科書やノートは捨てないで、一生の宝物として御活用していただければと思います。
14. 今日は、「働くことの意味」を皆さんと一緒に考えました。学校の学習はすべて働くときに役に立ちますので、教科書やノートは捨てないで繰り返し繰り返し生涯を通じて学習していただければと思います。

— 2013 年 2 月 23 日追記・改訂 林明夫 —